

自然体験活動上級指導者講習会～NEAL インストラクター～

平成30年9月15（土）～18日（火）

【目的】

自然体験活動の指導者に求められる知識・技能の習得を通して、青少年をはじめとする多くの人々へ自然体験活動を推進する人材となる。

なお、本研修を修了し、認定試験に合格した者は、「自然体験活動上級指導者」の概論Ⅱを修了することができる。

【参加者】4名

【プログラムの内容】

1日目

10:30 開講式、ガイダンスⅠ
11:00 アイスブレイク
14:00 講義・演習「自然体験活動の技術」
20:00 講義「自然体験活動の特質」

2日目

9:00 講義・演習「自然体験活動の企画・運営」
20:00 講義「学校教育における体験活動」

3日目

9:00 講義・演習「対象者理解」
13:00 講義「自然体験活動の指導」

4日目

9:00 講義「自然体験活動の安全管理」
13:00 ガイダンス・試験

講義・演習「自然体験活動の技術」



徳地アドベンチャープログラムを体験しながら指導者として、考えるべき事を学習しました。

講義「自然体験活動の特質」



地域の力を使った自然体験活動を意識しながら、自然体験活動だからこそ学べることをグループで探しました。

講義・演習「自然体験活動の企画・運営」



講師の菊間先生から、企画するにあたって大事な「横串」について学びました。参加者は苦労しながらも、自分たちのもつ「横串」を意識しながら事業の企画・運営」をまとめていました。

講義「学校教育における体験活動」



学校教育の中にどのような形で体験活動が入っているのか、また、それをどのように展開することが有効なのかを学びました。

講義・演習「対象者理解」



講師の黒田先生から、キッズコーチングの理論に基づいた対象者理解の方法を学びました。

講義「自然体験活動の指導」



講師の西村先生からアクティビティの特性について学び、まとめると同時に、展開の広げ方について学びました。

講義「自然体験活動の特質」



講師の井上先生から、自然体験活動中の事故やファーストエイドについて、実際に傷病者を見立てて、救助するまでを学びました。

傷病者の気持ちや、救助する際の手法や意識の持ち方などを学びました。

【参加者の声】

- 対象者と理解するために様々な視点が存在するのだということが分かった。
- 事業を企画するために必要なことが理解できた。
- 指導者として子どもたちの前に立つために、「もしものとき」を考えて、予防することと、対応すること二つの力を身に付けたいと思った。

【成果と課題】

- 単年の実施だったが、それぞれの単位に対応した講師陣をお呼びすることができ、対象にあったレベルの講習会を実施することができた。

また、事業の流れも講師陣と話をしながら組み立てることができ、参加者に伝えたいことを講習会内で具現化することができた。

ただ、参加者が4名という事が課題である。カリキュラムの特性上、演習を終えた人だけが対象となるため、施設内でリーダー取得者へ演習の参加をさらに促す必要がある。